

「愛のままで…」は、熟年離婚予防ソング???

紅白歌合戦史上、初出場歌手の最高齢として話題になった秋元順子の「愛のままで…」をご存じのことと思う。

この歌のことは、今のように知られていない昨年の秋頃に、家内から「ステキな歌が時々ラジオから流れているよ」と知らされたが、その頃は TV では聴くよしもなく、CD 化されているのかな?とネット検索した。

家内がお気に入りのようなので、街に出た時に「今年のクリスマス・プレゼントは、これでお終い!」と、1ヶ月以上早かったが買ってプレゼントした。

秋元順子は歌う夢を諦めず58才でデビューして3年後に紅白初出場を叶えたことから、「団塊の世代の星」として俄然時の人ともなり、頻回にTV出演しているのは、ご承知の通り。

この3枚目のシングルである「愛のままで…」は、最近「熟年離婚の予防ソング」と云われているとか。

音楽に疎い自分だけに歌は何度か耳にしていたが歌詞は気に留めたこともなかったので、改めて歌詞を目にして、「熟年離婚の予防ソング」と云われるのは分からないでもない。

だが、「この世に生まれ巡り逢う奇跡 すべての偶然があなたへとつづく」と歌詞にあるように、人との出会い、まして結婚相手との出会いは、奇跡であり偶然であるからこそ、熟年云々に関係なくいつの世代であっても、人との出会いは大事にしたいもの。

ちょっと関係する話かと思うが、先日、最新脳科学から男性と女性の違いの解説番組の中で、恋愛感情持続は脳科学的には4、5年が限度とか。

故に、一時の恋愛感情のゴールとしての結婚ではなく、互いが共にどこを向いて歩むか(価値観の共有)のスタートとしての結婚が望ましいとか。

最新脳科学的に云われるまでもなく、自分は若い頃に先輩から、「結婚してもいいかなと思う相手に出会ったら、その人の老いた時の顔、姿、姿勢を想像して、その老いがいいなあ~と思えるなら、相手として良し!」と教えられたもの。

こんな良き先輩に巡り逢ったのも、奇跡であり偶然というべきかも…。

さて、楽曲一つにもこんな屁理屈を感じるだけに、音楽的感受性は「0(ゼロ)」の我になってしまったのかなあ…(;\_;